

牧野標本館所蔵のシーボルト・コレクション**

加藤 僖重*

The SIEBOLD Collection preserved in the Makino Herbarium**

KATO Nobushige*

The "SIEBOLD Collection" in the Makino Herbarium, an institution attached to the Department of Science, Tokyo Metropolitan University, was sent from Komarov Botanical Institute in Leningrad (St. Petersburg at present) as the exchange specimens. This collection consists of more than 2,000 specimens stored in the 25 black wooden boxes. This report discusses which were made by P. F. von Siebold, ITO Keisuke, MIZUTANI Sukeroku, and OHKOUCHI Sonzin. The specimens of "Herbarium Botanica Kaiso" and the specimens relating to "Kwawi" are also treated in the report.

はじめに

東京都立大学理学部の牧野標本館 (第1図 左上・下) は1998年、創立40周年をむかえた。牧野標本館は云うまでもなく日本の植物分類学の草分けとも言うべき牧野富太郎博士 (文久2 (1862) 年4月24日~昭和32年1月18日) が、その一生をかけて集められた約40万点余の植物標本を永く記念保存するために、昭和33 (1958) 年に東京都立大学理学部の付属機関として作られた標本館である。現在、牧野博士が新種として発表された際の標本 (タイプ標本) 及び博士の作成した24万点 (重複標本を除く) を中心に、国内外の研究機関として交換して得た標本、小笠原・南アフリカ・ヒマラヤの標本、標本館スタッフの採集品などおよそ70万点が所蔵されている。

このように数多くの所蔵標本の中に、1963年12月にレニングラード市 (現セントペテルスブルグ市) のコマロフ植物研究所から交換標本として送

られたいわゆる "シーボルト標本" があることはあまり知られていない。

2,000枚以上の腊葉からなるこのコレクションは、縦35cm、横9cm、奥行き27cmの黒色の木箱、25箱 (第1図、右上) に納められている。木箱の背表紙には HERBARIUM MANUALE/FLORAE JAPONICAE/CURA/PH. FR. DE SIEBOLD COLLECTION/COMPOSITUM, と箱ごとに I-XXV のローマ数字が印字されている。各箱の背表紙には箱中の標本の科名が記されているが、記したのはロシア人のマキシモヴィッチ博士 (Carl Johann Maximowicz, 1827-1891) である。

残念ながら、ほとんどの標本に採集者名・産地名・採集年月日・等は記されていないが、それでも残された墨筆のメモや簡単なスケッチ等を鑑定することによって採集者等を特定することが可能な標本も多い。

* 独協大学生物学研究室, 〒 340-0042 埼玉県草加市学園町1-1.

Dokkyo University, Gakuenmachi 1-1, Sōka City, Saitama Pref. 340-0042.

原稿受付 1998年10月17日 横須賀市博物館業績第517号.

キーワード: シーボルト, 伊藤圭介, 平井海蔵, 花彙 Key words: von Siebold, ITO Keisuke, HIRAI Kaizo, Kwawi.

** このレポートは1998年10月3日に横須賀市自然・人文博物館で行われた講演「シーボルトと日本の植物」をまとめたものである。

コレクション中の多くの標本はシーボルト (Philipp Franz von Siebold, 1796-1866) がミュンヘンで亡くなった後、シーボルト夫人がマキシモヴィッチ博士に売却したものであるが、その後にマキシモヴィッチ博士が別ルートで集めた標本もかなり混ざっている。

シーボルト標本は多く場合、表紙に *Flora Japonica/Classis. /Ordo. /Tribus.*、裏表紙には *Genus, Subgenus, Species, Japonia.*、右下には *Herbarium Sieboldianum.* と印刷されている二つ折の大型カバー紙に挟まっているが、この大型カバーは属ごとに標本を整理するためのものである (第1図, 右下)。このカバーを用意したのは筆跡からシーボルトと考えられるが、一部にはマキシモヴィッチが加筆したカバーも見うけられる。

牧野標本館がこのコレクションを入手したいきさつは以下の通りである。1963年12月、セント・ペテルズブルグ市のコマロフ研究所のタカジャン博士 (Dr. A. Takhtajan) より上記のシーボルトの手控え標本 (25箱) が牧野標本館の故水島正美博士に送られてきた。先生は大喜びされていたが、当時健康を害されていた水島博士はせっかくのこれらの標本を調べる機会がほとんどないままに1972年9月9日に亡くなられた。それ以来30年近くが過ぎたが、筆者は1995年以来、少しずつこれらの標本の調査を始めている。調査終了にはまだほど遠いが、以下にこのコレクション中の特に興味深い標本を紹介したいと思う。

1. シーボルト作成の標本 (第2図)

シーボルトはもちろん監視つきではあったが、特例として長崎市内の各地を歩くことができたので彼が作成した標本の中に、Monte Inasa (稲佐山)、Monte Iwaja (岩屋山) 等で採集し彼自身が作成した標本が多数ある。また出島や鳴滝の庭に一旦植えこみ、花や果実をつけた後に作った標本と考えられる *Hort. Dezima*, *Hort. Narutaki* と記された標本、江戸参府の途中箱根で採集した標本等がある。さらには強制退去の30年後の1859年に再び息子のアレクサンダーを連れて来日したが、その時作成した標本でラベルに *Temple Honrenzi ad Nagasaki* (長崎本蓮寺) と記されてあるものや *Jokohama* と記された標本も多数ある。興味深いことは、植物学的に貴重なのは彼の不朽の名著『日本植物誌』の図を描くのにも利用さ

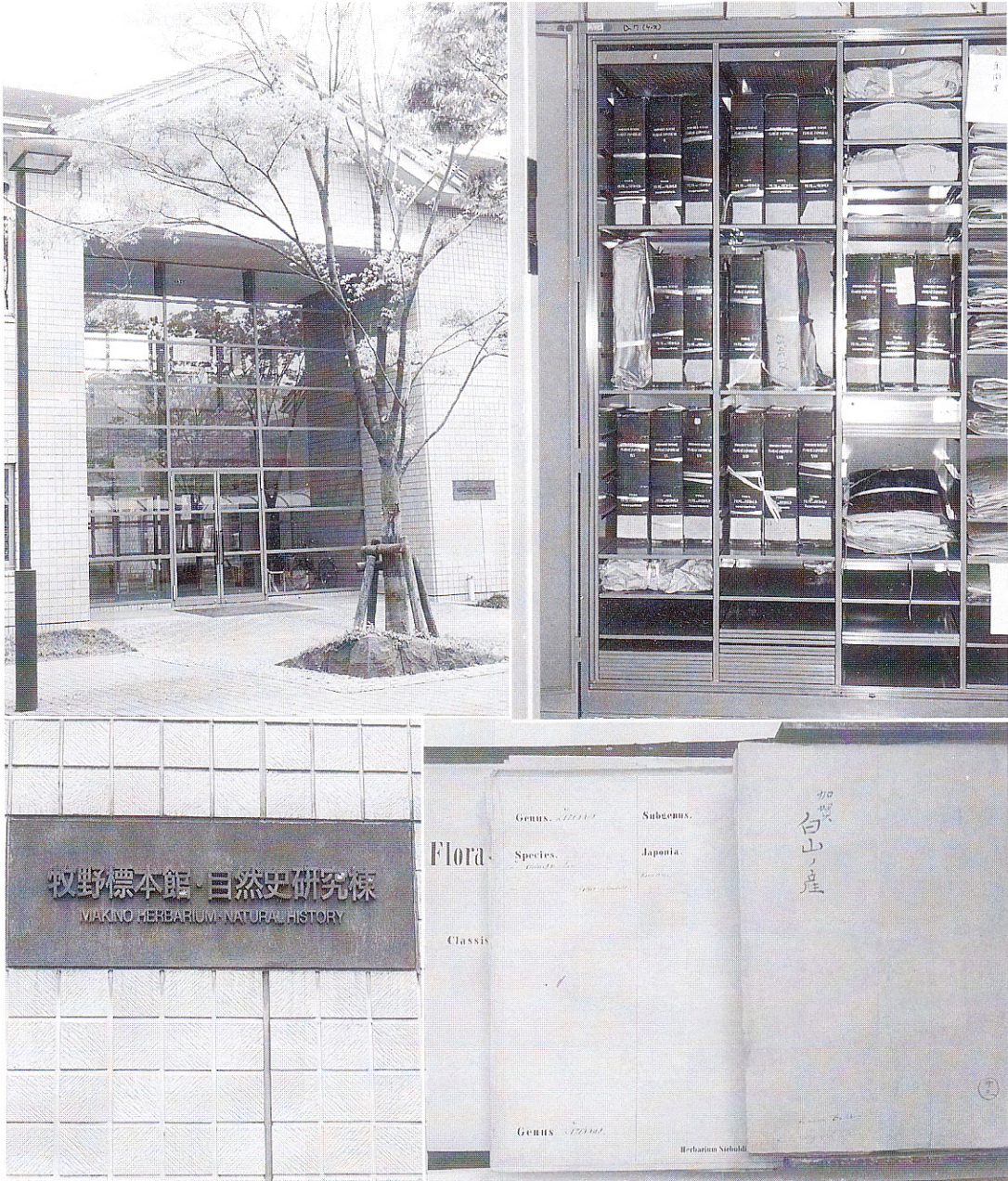
れた標本が残っていることである。もっともそれらのほとんどは現在オランダの国立植物標本館 (*Rijksherbarium*) に保管されているが、わずか一点であるが、牧野標本館所蔵のコレクションの中にも『*フロラ・ヤポニカ*』の117図版を作成する時に利用されたと考えられるイトスギの標本がある (第2図, 右下)。

2. 伊藤圭介標本 (第3, 4図)

このコレクション中には伊藤圭介 (1803~1901年) 作成と考えられる標本が多数ある。伊藤圭介はシーボルトがもっとも信頼した弟子であり、後にはもっとも強力な協力者となった日本人であり、日本の理学博士第一号者でもある。伊藤圭介作成の標本と言え、本人自身が宮 (現、三重県熱田) で1826年1月、江戸参府途中のシーボルトに会った際に贈り、現在はライデンの国立植物標本館に保管されている「伊藤圭介腊葉帖」が有名である。各冊とも縦31cm, 横21cm, 厚さ1.5cmで、表紙・裏表紙とも濃いオレンジ色で、各ページに張られた標本には朱で漢数字が記されている。「伊藤圭介腊葉帖」については、いまだまとまった報告書は出されていないが、「伊藤圭介腊葉帖」は一番~二百七十二番までの押し葉が貼られた七冊と四百十一番~六百二十七番までの押し葉が貼られた七冊の十四冊からなっていて、その中間の二百七十三~四百十番に当たる標本は見当たらない。

これらの腊葉帖の四番のイハワモダカ、六番のイハガ子サウ、十一番のイノモトサウ、五十二番のトクサなど頁がところどころ切り取られてなくなっているが、筆者らはライデンの標本館調査でそのような標本14点を見つけている (山口, 1997; 山口・加藤, 1998)。

さて私が調査した牧野標本館所蔵の伊藤圭介作成の標本には二百九十番のホロギク、二百九十二番のホウチャクサウ、三百十三番のカウホ子、三百五十六番のヤブカウジなど、「伊藤圭介腊葉帖」には含まれていない番号の標本があった。また五百七十一・五百七十二のヒメユリ、キヒメユリは「伊藤圭介腊葉帖」ではちょうどそのページが切り取られてしまっている。これらの標本が「伊藤圭介腊葉帖」の標本の一部であったのか否か、は非常に興味のあるところであるが、今回見つけた標本にふれられている漢数字は番号が同じであってもライデンの「伊藤圭介腊葉帖」の種とは別のものもあり、性急には結論が出せない (加藤, 1995; 1996a)



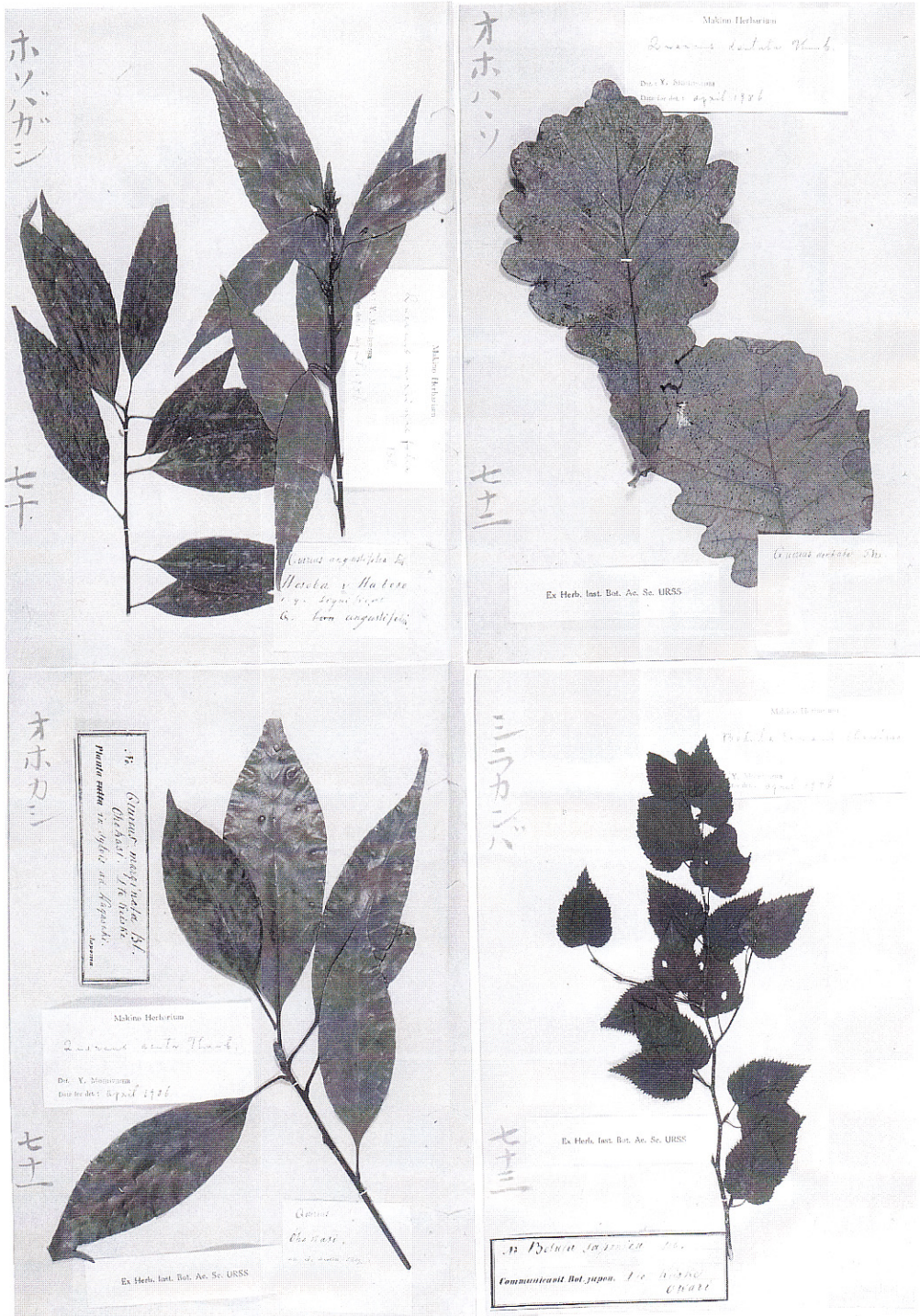
第1図 牧野標本館とシーボルト・コレクション。

左上 牧野標本館，左下 牧野標本館のプレート，右上 シーボルトコレクションを
保管してあるロッカー，右下 標本を挟んでいるカバー類。



第2図 シーボルト作成の標本。

左上 ad Nagasaki (長崎にて、の意)と記されたイヌガヤ, 左下 in H.B.D. (出島の植物園)と記されたハナショウブ, 右上 sponte in Mont. Iwaja (岩屋山)と記されたイヌガヤ, 右下 Flor. j. 117 (フロラ・ヤポニカ 117図版)と記されたイトスギ。



第3図 伊藤圭介標本の例(1).
 左上 ホソバガシ, 左下 オホカシ, 右上 オオハハシ, 右下 シラカンバ.



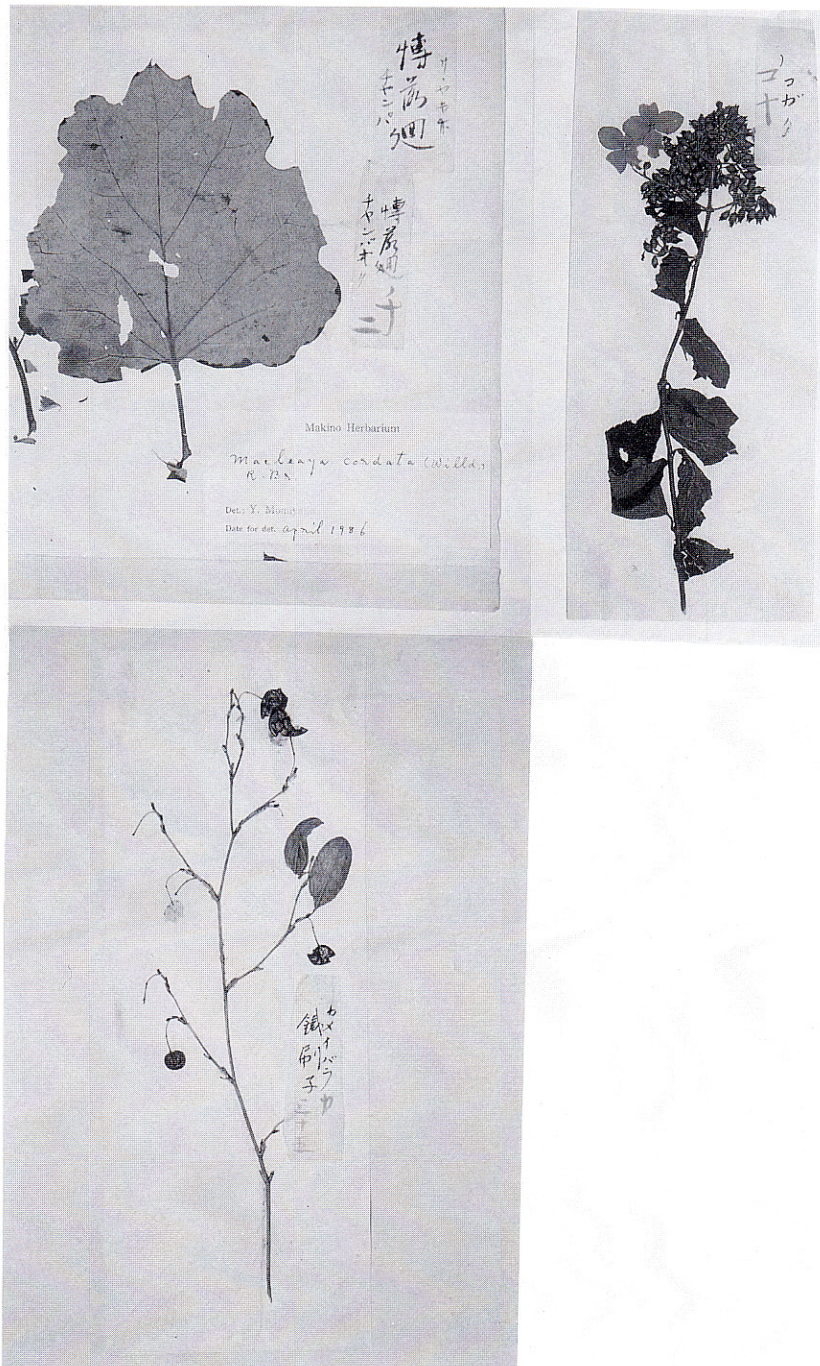
第4図 伊藤圭介の標本例(2)

左上 カウホ子, 左下 ヤブカウジ, 右上 ヒメユリ, 右下 キヒメユリ.

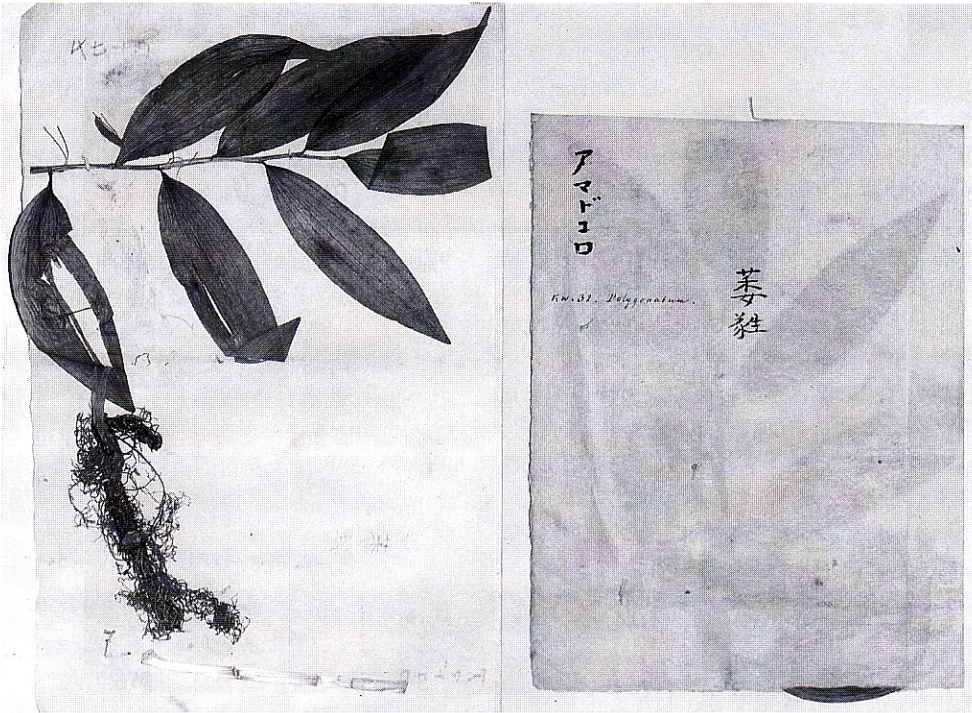


第5図 水谷助六作成の標本.

左上 アヤスギ (Mizutani Suikerokと記されている), 右上 中に挟まれた標本
左下 クマガク, 右下 標本および助六自身の描いた図とオランダ語.



第6図 平井海蔵標本帖から切り取られた標本。
 左上 チ十 チャンバ, 左下 カ三十五 カメイバラ, 右上 コ十 コガク.



薯蕷^{イモ} アドコロ
 諸列山谷往々有之春苗ヲ生ス高サニ尺許葉黄
 精ニ似テ莖^{イモ}直節アリ葉狭クシテ長ク茎紫
 色ナルヲ異ナリトス三月青白花ヲ開キ四實ヲムスフ
 根モ又黄精ノ如クニシテ小異アルノミ大抵杜衡細辛
 ヲ亂リ薯蕷ヲ捨テ黄精ヲトルノタクニ^{イモ}採^{イモ}萃^{イモ}スヘカ
 ラス



第7図 『花彙』に関する標本例 (アマドコロ Kw. 32 Polygonatumと記されている).

3. 水谷助六標本 (第5図)

1826年2月21日正午前、江戸参府に向かうオランダの貢使スチュレル (J. W. de Sturler) 一行総勢57名が尾張国の宮に到着したが、その際、尾張嘗百社の創立者水谷助六は弟子の大河内存真、その実弟の伊藤圭介とともに一行の中のシーボルトに会い、わずかな時間であったが、持参してきた標本類の学名を教わり、また水谷自ら作った植物写生図帖を見てもらい、自ら記したラテン語の学名の正誤を教えてもらっている。この写生図帖は現在ライデン大学図書館に保管されている。

水谷助六作成の標本が牧野標本館のコレクションの中に60点ほどある(加藤, 1996b)。

多くの標本のなかで「水谷助六によって作成された標本」と判断したのは、以下の理由による。

1 Mizutani Sukerok, M. Sukerok, M. S. など記されたラベルのついた標本。

2 縦15cm, 横10cmや縦20cm, 横15cmの二つ折の和紙に挟まれていたり白色の糸でとめられた標本はその表紙に植物名が墨書されているが、その筆跡が同一人と鑑定でき、しかもその中に Mizutani Sukerok によると記されているものがある (第5図)。もちろん同様の形式の標本が多数ライデンの標本館にも保管されている。そのような標本に簡単な墨絵やオランダ語の単語が毛筆で記されている場合もある (加藤, 1997a)。

4. オランダ国立植物標本館が所蔵している「平井海蔵標本帖」全4冊より切り取られた標本 (第6図)

平井海蔵 {文化6 (1809) 年~明治16 (1883) 年} の正体はよく分かっていないが、オランダ国立植物標本館が所蔵している「標本帖」があり、各ページに数点ずつ標本が貼付されている。標本は和名のイロハ順に配列され、他に各標本ごとにシーボルトは数字をふっている。標本は全部で704点、そのうち24点の標本が切り取られてなくなっている。そのかなりの部分をオランダ国立標本館で見つけたが、No105 チニ チャンパ (タケニグサ)、No188 カ三十五番 カメイバラ、No383 コ十番 コガク、など5点が牧野標本館のコレクションの中にある (加藤, 1998a)。

5. 島田充房・小野蘭山『花彙』に関係ある標本 (第7図)

『花彙』は宝暦9 (1759) 年より宝暦13 (1763) 年にかけて8冊出されている。各巻に25枚の見事

な図版が載っている (奥山, 1977)。ライデン大学の図書館には大河内存真の書き込みがあり、シーボルトに寄贈された『花彙』が保管されている (山口, 1997)。本書は江戸時代に出された数多くの標本の中でも精密度で、最高級の図鑑であり、シーボルトもさかんに利用していた。

牧野標本館のシーボルトコレクション中に縦約22cm, 横約16cmの二つ折和紙に挟まれた標本がかなりあるが、その中に表紙に筆で書かれた和名のほかにシーボルトがペンでKw. そして数字、あるいはKwawiそして数字を記した標本がある。このKw. あるいはKwawiは『花彙』を示している。まだ調査中であるが、ライデンの国立標本館に12点、牧野標本館に24点発見した (加藤, 1997b ; 1998b)。

引用文献

- 加藤僊重 1995. 牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション中にある日本人作成標本. 獨協大学教養諸学研究, 30 (1): 38-76.
- 加藤僊重 1996a. 牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション中にある日本人作成標本(2). 獨協大学教養諸学研究, 30 (2): 13-55.
- 加藤僊重 1996b. 牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション中にある日本人作成標本(3). 獨協大学教養諸学研究, 31 (1): 14-76.
- 加藤僊重 1997a. オランダ国立植物標本館に所蔵されている水谷助六作成の標本について. 獨協大学教養諸学研究, 31 (2): 77-119.
- 加藤僊重 1997b. ライデン国立植物標本館及び牧野標本館に所蔵されている『花彙』関連の標本について. 獨協大学諸学研究, 1(1): 86-145.
- 加藤僊重 1998a. 平井海蔵作成の標本帖. 獨協大学諸学研究, 1(2): 120-168.
- 加藤僊重 1998b. ライデン国立植物標本館及び牧野標本館に所蔵されている『花彙』関連の標本について. 獨協大学諸学研究, 2(1): 66-95.
- 奥山春希 解説, 小野蘭山・島津充房 編 1977. 『花彙』. 八坂書房.
- 山口隆男 1997. シーボルトと日本の植物学. カラヌス特集号. 熊本大学合津臨海実験所報, 1: 1-410.
- 山口隆男・加藤僊重 1998. シーボルトと日本の植物学 (その2). カラヌス特集号. 熊本大学合津臨海実験所報, 2: 1-536.